

ICT を活用した学習場面

B3 思考を深める学習, C2 共同での意見整理

図画工作科	2年2組 梅木 崇裕
単元名 どんどんならべてつんで (3/3)	
本時のねらい: ペットボトルキャップでの造形遊びについて, iPad に記録した写真をロイロノートで繋いで作った作品カードを鑑賞を通して, 友だちの活動のよさや工夫したところに気付き, 自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	
評価規準: ペットボトルキャップでの造形遊びについて, 友だちの活動のよさや工夫したところに気付き, 自分の見方や感じ方を広げている。【思考・判断・表現】	

指導の流れ

児童の活動 (ICT 活用の様子)・ICT 活用のねらいや留意点

○前時の授業で, 作品の制作途中から完成までの様子を iPad で写真に撮る。

1. 前時に iPad に記録した写真をロイロノートで繋ぎ, 制作過程の分かる作品カードを作る。
2. 画像を見て制作過程を振り返り, 作品カードの最後に, ロイロノートで工夫したところや感想を書く。
3. 全てのカードを繋ぎ, 作品カードを完成する。
4. 作品カードを鑑賞して, ペットボトルキャップをどのように並べたり積んだりしようとしたのか, どのように工夫したのかを友だちと伝え合う。



- ・完成した作品だけでなく, 制作途中の様子も撮影することで制作過程が分かり, 自分や友だちの工夫が分かるようにする。
- ・作品カードの最後の振り返りを書く際には, 制作過程を撮影した画像を確認しながら, 工夫や感想について書き, 本題材での一連の活動の様子が分かるようにする。

ICT 活用の効果 (困りが解決されたか)

成果: 造形遊びの中では, 完成した作品が残らないことも多く, また制作過程の様子の確認が十分にできないため, 自分たちで写真を撮って記録に残すことは活動後の振り返りをする上で有効であった。また, 自分の画像や友だちの画像を見ることで, お互いの工夫についてより具体的に知ることができ, 自分の工夫に繋がっていた。さらに, ロイロノートを使うことで, 完成した作品カードを教師機にまとめて提出することができ, 効率的に評価する事ができた。

課題: 友だちの活動の様子を見ることは自分の活動を広げたり深めたりする上で有効であったが, 活動後だけでなく, 制作途中にも自分や友だちの作品づくりの様子を見て, 撮影した画像を生かして工夫することができるよう手立てを講じる必要があった。ICT 機器の活用は手段であり, 目的はペットボトルキャップを並べたり積んだりして造形遊びをすることであることを意識しておく必要がある。